

TAGAWA! No. 232. Aug. 5, 1934). Shakko in rupibus (U. FAURIE! No. 258. Dec. 1913).

The largest fertile frond seen by me (TAGAWA No. 232) 15 by 12 cm., with stipe 16 cm. long.

## 笹 屬 の 有 葉 葎 區 (Phyllaxis)

小 泉 源 一

1931年宮部博士の樺太北海道植物誌第二卷に於て中井博士は笹屬中にヨウナイササ區 (*Lasioderma* NANAI) と有葉葎區 (*Phyllaxis* NANAI) の二新節を設立されしが、翌年植物學雜誌四十六卷九三頁にて前節を廢し真正笹區 (*Eusasa*) に合一され、後節は尙存在せしめしが、1935年植物研究雜誌第十一卷七號四四八頁にて笹屬全部の各節を論ぜられし時には後者は何れに合せられしか不明瞭となれり。

*Sasa* § *Phyllaxis* NAKAI はルベンベササ (*Sasa Niijimai* NANAI) とクシロササ (一名クッチャロササ) *Sasa Miyabei* NANAI の二種により設立されしものにて、然も兩種とも唯葎 (Scape) のみにより記載されし種なり。

元來笹は如何なる區の種なりとも根莖より葎を立て、開花する場合には必皆其葎に多少の葉を附くるものである。

*Phyllaxis* NANAI の性質は氏によれば、葎は其節餘り高からず、鞘には葉身をつけ其葉質は通例薄しとあり。

然るに何種の笹でも葎は必多少の葉をつくるものなるを以て葎のみにより種を立つる場合には、其元來何區に屬するかを判定するは容易ならぬ事もあるのみならず、如上なるを以て別に葎に葉ありとて特別なる一區をなすものにも非ず、事實ルベンベササはネマガリササ (チシマササ) の根莖より萌芽せし葎にして天塩國間寒別北大第二演習林パンケルペンペの type locality のものは開墾されて絶滅せしと雖も其知駒山の頂上には此ルベンベササ型の有花萌芽體のチシマササを多量に見るを得べく、而此型は元來の正千島笹體とは全く同一種に見へざる形態を示すは頗る味ふべき事なりと考ふ。

又他の一、クシロササは釧路國阿寒山羣には中々多量に各處に散生し大群落を成すが原標品は唯葎のみの標本なれども其母體の如何なるものかは容易に發見し得べくして、而も其體は全く真正笹區 (*Eusasa*) の一種なるを知るべし。

故に有葉葎區 (*Phyllaxis*) は千島笹區 (*Macrochlamys*) と真正笹區とに別るゝものに他ならぬ。